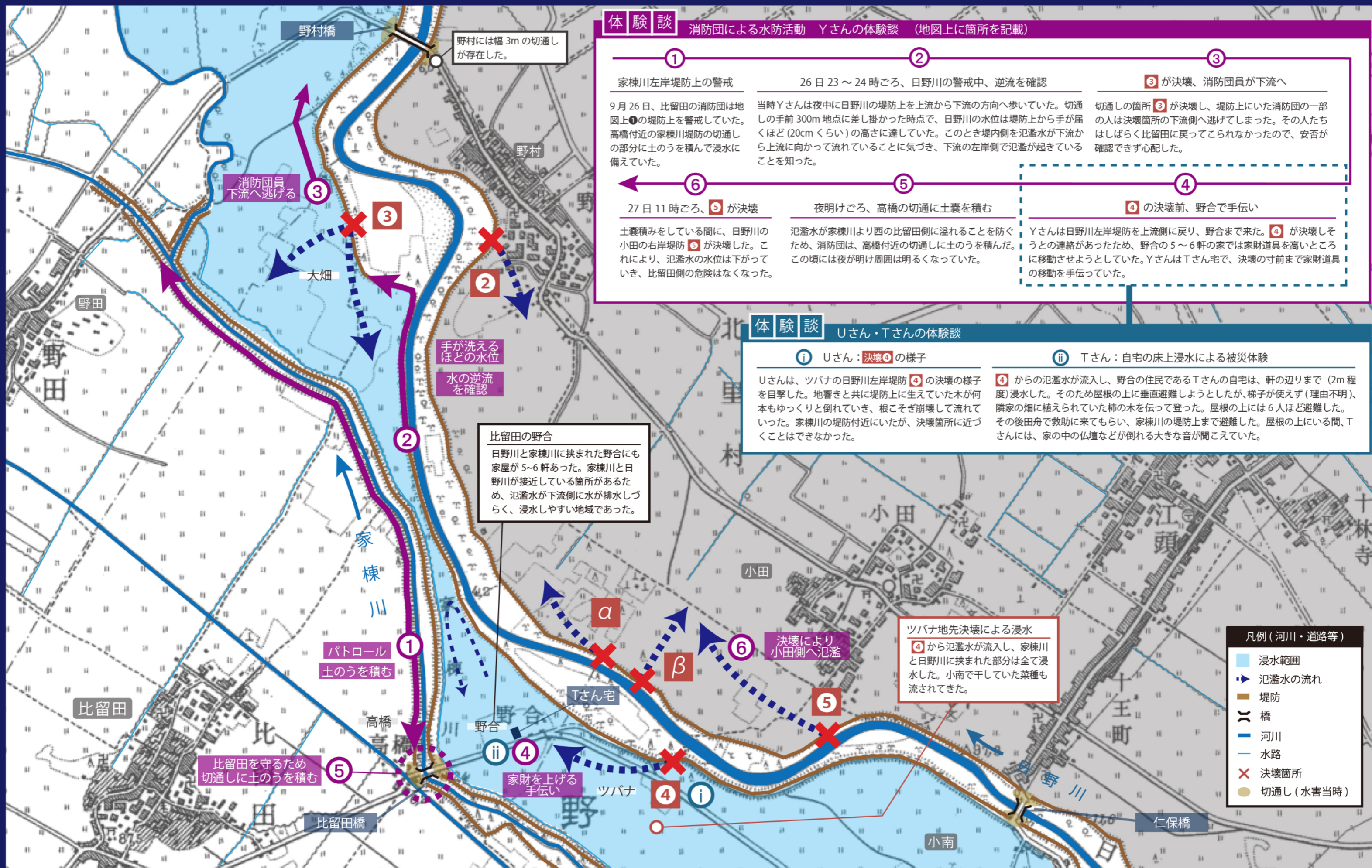


滋賀県野洲市比留田水害履歴マップ② 1959(昭和34)年8月14日(台風7号)・9月26～27日(伊勢湾台風)

- 1959(昭和34)年台風7号・伊勢湾台風による決壊箇所・被害状況
- 消防団員 Y さんの体験談
- U さんの体験談
- T さんの体験談

0m 250m 500m

2022(令和4)年10月12日の比留田自治会館での聞き取り調査と、DVD「ストップ・ザ・水害！」(制作:日野川改修期成同盟会)に基づき作成
 ※日野川右岸側の浸水範囲は未確認であったため、描画しない。作成 関西大学 景観研究室(「1/25000 近江八幡」(昭和31年発行)上に加筆)



体験談 消防団による水防活動 Y さんの体験談 (地図上に箇所を記載)

① 家棟川左岸堤防上の警戒
 9月26日、比留田の消防団は地図上①の堤防上を警戒していた。高橋付近の家棟川堤防の切通しの部分に土のうを積んで浸水に備えていた。

② 26日23～24時ごろ、日野川の警戒中、逆流を確認
 当時Yさんは夜中に日野川の堤防上を上流から下流の方向へ歩いていた。切通しの手前300m地点に差し掛かった時点で、日野川の水位は堤防上から手が届くほど(20cmくらい)の高さに達していた。このとき堤内側を氾濫水が下流から上流に向かって流れていることに気づき、下流の左岸側で氾濫が起きていることを知った。

③ ③が決壊、消防団員が下流へ
 切通しの箇所③が決壊し、堤防上にいた消防団の一部の人は決壊箇所の下流側へ逃げてしまった。その人たちはしばらく比留田に戻ってこられなかったため、安否が確認できず心配した。

④ ④の決壊前、野合で手伝い
 Yさんは日野川左岸堤防を上流側に戻り、野合まで来た。④が決壊しようとの連絡があったため、野合の5～6軒の家では家財道具を高いところに移動させようとしていた。YさんはTさん宅で、決壊の寸前まで家財道具の移動を手伝っていた。

⑤ 27日11時ごろ、⑤が決壊
 土嚢積みをしている間に、日野川の小田の右岸堤防⑤が決壊した。これにより、氾濫水の水位は下がっていき、比留田側の危険はなくなった。

⑥ 夜明けごろ、高橋の切通しに土嚢を積む
 氾濫水が家棟川より西の比留田側に溢れることを防ぐため、消防団は、高橋付近の切通しに土のうを積んだ。この頃には夜が明け周囲は明るくなっていた。

体験談 U さん・T さんの体験談

i U さん：決壊④の様子
 Uさんは、ツバナの日野川左岸堤防④の決壊の様子を目撃した。地響きと共に堤防上に生えていた木が何本もゆっくりと倒れていき、根こそぎ崩壊して流れていった。家棟川の堤防付近にいたが、決壊箇所近くにはできなかった。

ii T さん：自宅の床上浸水による被災体験
 ④からの氾濫水が流入し、野合の住民であるTさんの自宅は、軒の辺りまで(2m程度)浸水した。そのため屋根の上に垂直避難しようとしたが、梯子が使えず(理由不明)、隣家の畑に植えられていた柿の木を伝って登った。屋根の上には6人ほど避難した。その後田舟で救助に来てもらい、家棟川の堤防上まで避難した。屋根の上にいる間、Tさんには、家の中の仏壇などが倒れる大きな音が聞こえていた。

比留田の野合
 日野川と家棟川に挟まれた野合にも家屋が5～6軒あった。家棟川と日野川が接近している箇所があるため、氾濫水が下流側に水が排水しづらく、浸水しやすい地域であった。

ツバナ地先決壊による浸水
 ④から氾濫水が流入し、家棟川と日野川に挟まれた部分は全て浸水した。小南で干していた菜種も流されてきた。

- 凡例(河川・道路等)
- 浸水範囲
 - ▶ 氾濫水の流れ
 - 堤防
 - 〰 橋
 - 河川
 - 水路
 - ✕ 決壊箇所
 - 切通し(水害当時)